26PB-am183

エルネオパ2号輸液中に混注されたインスリンの含量変化に関する検討

○佐藤 英治[1], 前田 翔太[1], 藤村 よしの[1], 木平 孝高[1], 井上 裕文[1], 山下 貴弘[2], 熊谷 岳文[2], 鶴田 泰人[1], 吉富 博則[1]（[1]福山大薬，[2]（株）ファーマシィ）

【目的】インスリンは輸液に混注すると分解や輸液バックへ吸着等によりその含量が低下することが知られている。これまで、演者らはエルネオパ 1 号液へのインスリン混注後の安定性について検討してきた。本研究ではエルネオパ 2 号輸液にヒューマリン R を混注した際のインスリンの含量変化について検討し、エルネオパ 1 号液との比較を行った。

【方法】エルネオパ 2 号輸液の 2 室の隔壁と 2 つの小室を同時に開通したのちに、ヒューマリン R（100U/mL）を 0.3mL 混注し、暗所、4℃で保存した。混合直後から 7 日目までのインスリン残存率を測定した。エルネオパ 2 号輸液に混注されたインスリンの定量は HPLC を用いて行った。

【結果・考察】エルネオパ 1 号液では、ヒューマリン R を混注後 1 分でインスリンの含量は 70%に減少し、その後 7 日目まで安定していた。一方、エルネオパ 2 号液では、混注後 1 分でインスリンの含量は 77%に低下し、その後、緩やかに減少し続け、最終的に 7 日目には 54%にまで低下した。